

高校受験直前でも間に合う英語長文の勉強法

受験直前でも英文の読解力はかなり上がります。 やらないのはもったいないですね！

まず、1日、2、3題は長文問題を解きましょう。

1題あたり、解くのに10～15分、丸付けに5～10分だとして20分位。

長文3題に取り組んだとして、1時間でできます。

解くときには、英文の意味の切れ目にスラッシュ(／)を入れていきましょう。

これをスラッシュリーディングと言われます。

切れ目をいれる位置は動詞、前置詞、不定詞、分詞、接続詞の前など ありますが、あまり細かなルールは設けず、ここが意味の切れ目かな？というところに入れていきましょう。

長文を分解することで、分かっている部分と、理解が曖昧な部分とを明確にできます。

また意味が分からない単語や熟語が出てきたら、アンダーラインを 引きましょう。

その場では調べず(いちいち調べると集中力が 途切れます。)、

丸付けの際に、解答解説の日本語訳と照らし合わせて意味を確認しましょう。

解いた後、日本語訳に目を通すのは たいへん効果的です。

漠然と理解していたところが明確になり、次の長文読解につながります。

丸付けが終わったら長文の音読をしましょう。

音読がスラスラできる ようになると、黙読のスピードも上がっていきます。

視覚情報だけでなく 聴覚情報も利用できるようになります。

最後に、新しい単語や熟語が含まれている文を書いて練習しましょう。

単語や熟語だけでなく、文単位で練習した方が効果が高いです。

時制などに合わせて語形変化された形で練習できるからです。

長文問題をやっていると、この「書く」という作業が減りがちなので
そこが不十分にならないように気をつけましょう。

長文問題は、やはり過去問を解くのが効率が良いです。

まとめ

高校受験での学習は、高校での英語の勉強の土台作りになります

しっかり学習しておく、高校での学習がスムーズになり、その先の大学入試にもつながります。

今、頑張っていることは将来の自分につながっていきますので一生懸命に取り組んでください！